

レッドトップ (英名: Redtop)

又カボ属

略号: RT



<特徴>

- 和名: コヌカグサ
- 出穂後に穂が赤黒く着色する
- ヨーロッパ原産。明治初期に導入され、現在も道路法面や河川敷に利用される
- 出穂期の草丈は 100 cm に達する場合もあるものの、茎が細く生産性が低い
- 繁殖は種子と根茎。ほふく茎があり密生する
- 根は細長く、土中 10 cm 以内に多い
- 低 pH、低りん酸、排水不良地でも良好に生育する
- 嗜好性は高くないが、スプリングフラッシュが少なく、ある程度の干ばつにも耐えられる

収量低下

嗜好性低下

成分注意

ほふく茎

選択性
除草剤なし



手前出穂した草がレッドトップ

穂の形状

見分けるポイント

※「植調雑草大鑑」より写真転用



※
分げつして株になる。
葉は柔らかいがざらつく



葉が小さく
株元が赤い



大きな葉舌が
あり葉耳が無い



※
親株からほふく茎を伸ばし密に
萌芽する

侵入の特徴・防ぎ方



侵入の始まりは、裸地もしくは収穫時のダンプの走行溝で土が露出した箇所からが多い。

発生予防は、草地更新時に 30 cm 程度の深さで耕起することと、裸地を放置しないこと。除草剤で広葉雑草を枯殺した後の裸地が目立つ場合は追播を考えたい。